



# こんにちは、 岐教事です！

岐阜教育事務所だより  
7月号 (No. 4)  
平成28年7月29日発行

## ◇夏休み明けも子どもたちが笑顔で学校生活を送れるようにするために ～居場所づくり、絆づくり～

教育支援課 学校地域連携係

夏休みが終わり学校生活の始まる8月終わりから9月にかけては、不登校児童生徒の数が夏休み前よりも増える時期となっています。それだけ、子どもたちが精神的に不安定になりやすいことが予想されます。

今年度も、「居場所づくり、絆づくり」をキーワードにして、多くの子どもたちが笑顔で学校生活を送れるようにすることが、新たな不登校やいじめ等の未然防止につながるという考えのもと、各校で様々な取組をいただいています。

これまでに訪問した学校の取組の中から、「居場所づくり、絆づくり」のヒントを紹介します。

### ○所属感、達成感を高める特別活動 ～小学校（中学年）での学級活動の様子から～

議題：『みんなが楽しく学級遊びをするためには』

事前に聞いた「学級遊びがうまくいかなかった」という児童の声が、議題となります。司会者、提案者、書記が前で進行をします。学級の児童はお互いの顔が見えるようにコの字型の机列ですわります。

司会者の「どうしてうまく遊べないのだろう」の問いかけに、「しゃべるから」「あきてしまう」等考えていることを出し合います。次に「どうすればうまく遊べるだろう」と解決の方法を考えていきます。教師は話合いのポイントを助言したり、いい姿を認めたりします。最後にはこれから学級遊びをするとき気を付けていくことを確認しました。



児童同士で話し合う学級活動

#### <指導のポイント>

- 1 児童生徒に「**必然性**」のあるテーマを提示（例：学級目標、学級遊び、体育祭、給食、掃除等）
- 2 話合いの**組織化**（例：提案者、司会、書記、班長等）
- 3 **話合いのポイントの提示**（例：一人一人の考えが出ているか、実行可能かどうかなど）
- 4 共通理解の上に成り立つ**約束づくり**（例：みんなで決める遊びに文句等を言わないなど）
  - 自分たちの生活について考え、約束を決め、決めたことに責任をもって実行していくことで「楽しくなった」「みんなができた」「給食の配膳が早くなった」「教室がきれいになった」等自分たちの生活が**よくなったという実感**をもたせる。
  - 上記の指導の積み重ねが、**集団の所属感・達成感**を生む。

上記のように、児童生徒が心から安心して、自己存在感や充実感を感じられる場所を教師が提供する「居場所づくり」、主体的に取り組む共同的な活動を通して、児童自らが「絆」を感じ取り紡いでいく「絆づくり」を進めていくことが、笑顔あふれる学校生活につながります。

問題行動等で目立つ児童生徒だけでなく、普段目立たない多くの児童生徒たちが、「学校が楽しい」「授業がよく分かる」等と思えるように指導・支援していくことが、新たな不登校やいじめなどの未然防止につながっていくと考えています。今後も、子どもたちの笑顔のために指導をお願いします。



## きれい！と光る すてきな実践を紹介します！

### 読むことへの挑戦

#### 英語科編



教科書の本文（物語）の意味内容を正しく理解し、その意味内容にふさわしい音読をめざす中学2年生の授業を参観しました。

ペアや班員で、お互いの音読を聞き合い、「ここは、急ぐ場面だから、もう少し速く読んだ方がいいよ。」等、アドバイスを積極的に行っていました。また、授業の後半では、ALTの先生に教科書の本文を加工していただきました。生徒にとっては初見の英文を提示され、学習内容を活用する場を工夫してみえました。生徒たちは、「初めて読む英文でも、スラスラ読めて楽しい。違う文章でも、強調したり、ゆっくり読んだりすることができた」と手ごたえをもつことができていました。

自分の力で即興的に課題解決に臨む機会を設けることで、「できた・わかった」と実感できることを示していただきました。

### 実感を伴う理解

#### 家庭科編



布の吸水実験と汚れの落ち方に関わる実験を通して、汚れた場合の洗濯の必要性について理解する時間を参観しました。

まず、実際に汗のついた布(A)ときれいな布(B)の吸水量が違うことを確認しました。実験からAの布は吸水する量の少なさを目で見て実感することができました。さらに、汚れが布の繊維に絡んでいる電子顕微鏡写真で観察することを通して、科学的な根拠を知り、知識を深めていくことができました。次に汚れがついた時間に差を付けた2枚の布の落ち具合の差を、実際に洗うことを通して確認していきました。

生活を想起させた上での実践的・体験的な活動を通して、早く汚れを落とす必然性やその理由について、実感を伴う理解ができるようにするとともに、今後の生活をよりよくしようとする力を育成していただきました。

### 学び合いを組織する

#### 理科編



植物は日光に当たると、二酸化炭素をとり入れて、酸素を出すことを調べる時間を参観しました。

あえて種類の異なる植物を用意され、8つの班が植物に袋をかぶせて実験できるようにされました。種類の異なる植物について調べた各班の結果を、総合的に分析し合う話し合いを組織されたことによって、「エダマメに限らず、全ての植物が…」と、子どもたちが自ら「見方や考え方」の一般化を図っていきました。また、終末には、日光を当てない植物に袋をかぶせておき、袋の中の酸素と二酸化炭素の割合を調べて、その数値を提示されました。8つの班の結果と明らかに違うことに気付くとともに、「植物の呼吸の働き」について考えることにつながりました。

教師の意図の明確な指導は、子どもたちの深い学びを創造しました。